

今週（12月25日から12月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週間の日銀当座預金残高は390兆円程度で横ばい圏での推移となった。無担保コールO/Nの加重平均レートは25日から27日までは概ね▲0.07%程度で推移した。週を通して出し手優勢の展開で、出し残りの状態が続いた。28日は四半期末要因から取り手が少なく、▲0.08%台での出合いが少なかったことから、加重平均レートは上昇した。業態別では、取り手は証券・信託業態で▲0.086%、地銀業態で▲0.086～▲0.045%のビッドが中心となった。出し手は投信業態以外にも地銀業態が散見されており、資金余剰感の強い地合いであった。基準比率が今積み期間から低下したこと、今積み期間は連休が多く、営業日数が少ないことが影響していると考えられる。ターム物は月内物のショートターム物で▲0.086～▲0.060%の出合いが見られている。年初スタートは▲0.05～▲0.045%程度の出合いが僅かに見られている程度で、調達サイドは慎重な姿勢が続いている。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.130～▲0.090%程度の水準で推移した。SC個別銘柄では、5年130～137、10年336～352、20年160～166、30年55～60、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末を控えて参加者が減少している中、閑散なマーケットとなった。週後半には、年末のポジション調整からか売り物が散見され、3M物で▲0.160～▲0.135%程度での出合いとなった。また、年内最終営業日の28日は受渡日が新年になったものの、足元ファンディングレートの上昇や年明けに入札が3回予定されていることもあってか、様子見姿勢の強いマーケットとなった。

26日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、特定の銘柄の処分売りからか、按分落札利回較差+0.060%、平均落札利回較差+0.069%と弱い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、年末年始を跨ぐ発行となり、償還総額4兆2,000億円程度に対して、発行総額は2兆8,000億円弱となる四半期末の大幅な償還超のマーケットになった。12月末は3・9月末に比べると発行残高の落ち込みは限定的であり、ノンバンク・鉄鋼・商社・石油等の幅広い業態が年末スタートで大型の発行を行った。今年は、例年と比べて特に発行残高が多く、月末残高は19兆円付近と推定され、昨年の16兆8,000億円程度と比較して大幅な残高の伸張が見られている。CP発行残高が落ち込んでいる金融法人とは対照的に、事業法人のCP活用姿勢が反映されている。発行レートについては、市場残高が高水準であることを背景に、積極的に玉を確保しようとする動きは限定的であり、▲0.01%台で決着する動きは影を潜め、希少銘柄でも▲0.005～▲0.002%程度、その他の銘柄では0%近辺での決着が中心となった。

CP等買入オペは、オファー額の増加予想もあったが、25日に事前予定通り2,000億円でオファーされた。年末スタートのオペとなったものの、発行量が多く、売却ニーズの強い銘柄が採用されたこともあり、レート水準の低下は見られず、平均落札レート0.003%、按分落札レート▲0.001%と、前回比（平均▲0.002%、按分▲0.002%）で共に上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/24 (月)						
12/25 (火)	19,155.74	0.010	110.20	△ 0.070	△ 0.119	3,898,900
12/26 (水)	19,327.06	0.018	110.44	△ 0.070	△ 0.120	3,901,600
12/27 (木)	20,077.62	0.020	111.10	△ 0.070	△ 0.121	3,891,700
12/28 (金)	20,014.77	△ 0.004	110.83	△ 0.054	△ 0.100	3,891,500

# 来週・再来週（12月31日から1月11日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/31 (月)					
1/1 (火)	元日				New York、EURO、London祝日 (New Year's Day)
1/2 (水)					
1/3 (木)					11月の米建設支出 12月のISM 製造業景況指数
1/4 (金)					12月の米雇用統計 12月のユーロ圏消費者物価指数速報値
1/7 (月)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 12月のマネタリーベース(日銀 8:50)				11月の米製造業新規受注・出荷・在庫 12月のISM 非製造業景況指数
1/8 (火)	1月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 12月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 43,400億円 1/9発行	10Y 22,000億円 1/9発行	交付税借入 10,500億円 1/18借入	11月の米貿易収支 11月の米消費者信用残高
1/9 (水)	11月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	TB6M 23,000億円 1/10発行			
1/10 (木)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 12月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 11月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 7,000億円 1/11発行			11月の米卸売売上高
1/11 (金)	12月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 11月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	TB3M 43,000億円 1/15発行	エネルギー 対策借入 7,000億円(見込) 1/22借入		12月の米財政収支 12月の米消費者物価指数

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
12/31 (月)									
1/1 (火)	元日								
1/2 (水)									
1/3 (木)									
1/4 (金)	6,100	▲ 23,900	▲ 17,800	国債補完	700		700	▲ 17,100	2Y発行▲21000
週間合計	6,100	▲ 23,900	▲ 17,800	—	700	0	700	▲ 17,100	
1/7 (月)	6,000	▲ 7,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
1/8 (火)	5,000	▲ 28,000	▲ 23,000	全店共通	▲ 1,900		▲ 1,900	▲ 24,900	税・保険料揚げ 国立大学法人運営費交付
1/9 (水)	3,000	▲ 18,000	▲ 15,000				0	▲ 15,000	TB3M発行▲43400償還41200 10Y発行▲22000
1/10 (木)	3,000	2,000	5,000				0	5,000	TB6M発行▲23000償還22000
1/11 (金)	3,000	▲ 6,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	30Y発行▲7000
週間合計	20,000	▲ 57,000	▲ 37,000	—	▲ 1,900	0	▲ 1,900	▲ 38,900	

1/4は日銀予想、1/7以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、銀行券の還流が多くある一方で、4日は2Y発行による大幅な不足日、8日が税揚げによる大幅不足日、9日が3MTDB、10Y発行による不足日となることが見込まれる。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、年明けは、8日に3M物、9日に6M物、11日に3M物の入札が実施予定となっており、海外勢の動向や入札ラッシュによるレートへの影響が注目される。CP市場は、休暇となっている事業法人も多く、閑散なマーケットになると思われる。10日にCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっている。

主要なイベントとしては4日の12月の米雇用統計、12月のユーロ圏CPI速報値、11日の米国CPIなどが挙げられる。米政府機関の一部閉鎖により、米国では指標の発表がずれる可能性がある。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
- ◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品の取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。